

令和 5 年度

「令和の里海づくり」モデル事業実施業務

**(学び・体験・食を通じた岡山の里海づくりと
低・未利用「地魚」の流通・消費促進)**

報 告 書

令和 6 年 2 月

岡山水産物流通促進協議会

目次

業務概要.....	1
1. 取組概要.....	2
2. 「来て！見て！食べて！恵み豊かな瀬戸内海を学ぶ旅」の実施.....	3
2.1. 目的.....	3
2.2. 検討方針.....	3
(1) エコツアーの企画・検討.....	3
(2) 一般社団法人みんなでびぜんが運用する「ひなせうみラボ」の多目的室とバーベキューの利用についても連携できるよう調整した。パンフレットの作成方針....	3
2.3. エコツアーの実施.....	4
3. 水産物を活用した商品開発.....	5
3.1. 目的.....	5
3.2. 実施内容.....	5
3.3. 今後の活用計画.....	5
4. プロモーション・普及啓発で活用するツールの制作.....	6
4.1. 目的.....	6
4.2. 作成方針.....	6
(1) 小冊子.....	6
(2) 動画編集.....	6
4.3. 制作物.....	6
(1) 小冊子の制作.....	6
(2) 動画の編集.....	7
4.4. 今後の活用計画.....	7
5. 好循環形成に向けた検討.....	8
5.1. 目的.....	8
5.2. 検討内容.....	8
(1) エコツアーの成果・課題.....	8
(2) 商品開発の成果・課題.....	8
(3) プロモーション・普及啓発で活用するツールの成果・課題.....	8
5.3. 今後の展望.....	8

業務概要

1. 業務目的

環境省事業「令和5年度藻場・干潟の保全・再生等と地域資源の利活用による好循環モデルの構築等業務」（請負者、本仕様書業務の発注者：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社（以下、「発注者」という）、共同実施者：八千代エンジニアリング株式会社（以下、「共同実施者」という）の一環として、閉鎖性海域等の沿岸地域において地域の多様な主体と連携しながら、藻場・干潟等の保全・再生等と地域資源の利活用による好循環形成に向けた「令和の里海づくり」に係るモデル事業を実施する（以下、本仕様書に基づき実施する業務を「モデル事業実施業務」という）。

2. 業務内容

実施した業務内容は下記のとおり。

- ① 「食と学びと体験と 恵み豊かな瀬戸内海エコツアー」（仮名称）の実施
- ② 水産物を活用した商品開発
- ③ プロモーション・普及啓発で活用するツールの制作
- ④ 好循環形成に向けた検討

3. 発注機関

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

4. 受注期間（請負者）

岡山水産物流通促進協議会

5. 業務実施期間

令和5年8月30日から令和6年2月15日まで

1. 取組概要

「豊かな水産物の食文化を持つ岡山の魅力発信」を目的に、岡山の小魚や未利用魚を工夫して食べる魚食文化を発信している。昨年度は、魚食文化を支える藻場・干潟の保全・再生活動の実施やそれを体験できるエコツアーの視察・検討やアマモ活動への参加、低・未利用の商品開発の検討を行ってきた。

活動の中で、岡山ならではの豊かな魚食文化を育み支えていたのが、岡山の海に存在した広大な浅い海と干潟、そこに広がる藻場の存在であることを知り、またその藻場・干潟の現状を知ることにより目的である『豊かな水産物の食文化を持つ岡山の魅力発信』の活動を行うには、藻場・干潟の保全・再生活動にも努め、またより多くの消費者にこの現状の理解促進が必要である。

理解促進にあたって、協議会の基軸でもある水産物普及活動—魚食文化に触れ、藻場の視察や研修の開催、水産物の調理体験など、昨年度に開催した視察ツアー参加者からの意見等をブラッシュアップし、より参加者が楽しみながら藻場・干潟、アマモの役割について関心を持ってもらえる『食と学と体験 恵み豊かな瀬戸内海エコツアー』（仮）の実施をメイン事業とし、エコツアーの藻場やアマモの研修に使用出来る、アマモの活動に参加している団体の紹介やアマモ及びそこに生息する魚を撮影したプロモーション動画の制作、エコツアー参加者に水産物の美味しさを知ってもらうための商品開発、プロモーションにおいて使用するツールの製作など、参加者が興味を持って環境問題に取り組める内容を考えると共に、連携団体・企業の専門分野を生かした、多方面で活用できる魅力ある事業に繋げる。

エコツアーに関しては、昨年度の『令和の里海づくりモデル事業』で検討・実施した視察で体験した課題の解決も含めて検討する。

2. 「来て！見て！食べて！恵み豊かな瀬戸内海を学ぶ旅」の実施

2.1. 目的

一般の人への理解や興味・関心の向上のため、バリエーションにとんだアクションのあるエコツアー、『来て！見て！食べて！恵み豊かな瀬戸内海を学ぶ旅』を計画し、そのエコツアーを実施した。

また、エコツアー実施に向けて集客用のパンフレットを作成した。

2.2. 検討方針

(1) エコツアーの企画・検討

移動手段をJR西日本の観光列車『ラマルドボア』、海洋見学船に『NOINAHARE』を使用する等、参加者により楽しんでいただける施策を検討した。また、ラマルドボア乗船時間に配布したリーフレットやアマモ、魚の説明が出来るよう2車両とも貸切り、開催した。

天候状況によってはツアー内容が変更となるため、悪天候の際のツアー内容も検討した。移動手段の時間が決まっているので、ツアーのタイムテーブルに無理が無いよう、検討を繰り返した。

(2) 一般社団法人みんなでびぜんが運用する「ひなせうみラボ」の多目的室とバーベキューの利用についても連携できるよう調整した。パンフレットの作成方針

作成したパンフレットを以下に示す。

パンフレットは、500部印刷した。



図 2-1 パンフレット

2.3. エコツアーの実施



ツアー実施に関しては、JR 西日本旅客鉄道株式会社、株式会社日本旅行へ集客や開催実施を依頼した。当協議会は連携企業と共に、両日ともにツアーの同行、研修サポート、食事体験のサポートなど全面的なサポートを行った。ツアー最後には里海づくりのHPなどを紹介するチラシを配布し、QRコードにより手軽に検索できることも説明した。ツアー開催後には参加者へのアンケートも実施し、ツアーに対する意見等をまとめて連携団体とも共有した。

表 2-1 実施状況

実施日	実施内容	参加者
2023年10月15日	観光列車ラマルドボアでの移動 NORINAHARE 乗船での海洋見学 アマモについての研修 未・低利用魚などの昼食	大人 31名 小人 6名
2023年11月26日	観光列車ラマルドボアでの移動 NORINAHARE 乗船での海洋見学 アマモについての研修 未・低利用魚などの昼食	大人 34名 小人 6名

3. 水産物を活用した商品開発

3.1. 目的

豊かな水産物の食文化を持つ岡山の魅力発信を目的に、岡山の未・低利用魚を使用したレシピ開発を行った。

また、協議会が活用しているイラストや画像をパッケージに盛り込み、商品を食べながらパッケージを読むことで手軽に藻場・干潟の再生活動や未・低利用魚の普及活動を知ってもらう等のきっかけを創出した。

3.2. 実施内容

当初は関連企業の店舗などで販売可能なスナックなどの常温商品の開発を検討していたが、検討過程での原魚の仕入状況やOEMの企業選考等、年度内での開発が困難な状況になったため、手軽に開発・販売可能な未・低利用魚を使用した惣菜・料理の開発に変更した。レシピは、20種類開発した。

惣菜・料理の開発及びレシピの提供が可能となれば、各小売店、飲食業者への状況提供が可能となり、未・低利用魚の仕入業者、仕入状況、関連企業によるPR活動のバックアップ体制などを関連することによる活用店舗の増加を計画している。

3.3. 今後の活用計画

惣菜・料理の開発については、まずは連携企業である株式会社長谷井商店が新規事業として営業している惣菜・弁当店舗においてチヌやひらの商品の販売を依頼している。料理店への普及に関しては、レシピをまとめた資料の作成ができ次第、随時、連携企業にも協力してもらい、料理店への訴求に努める。また、未・低利用魚の普及と共に藻場・干潟の再生・保存に関してのリーフレット、小冊子を活用しながらの未・低利用魚の利用促進に繋げることを目指す。



黒鯛のカレー

ちぬのあらで出汁を取り、身を具材にしたちぬ一匹を使用したココナッツ風味のカレー。家庭でも簡単に作れ、ココナッツの優しい風味のカレーなので、お子様でも美味しく召し上がれる。



4. プロモーション・普及啓発で活用するツールの制作

4.1. 目的

藻場・干潟保全・再生活動から未・低利用魚までのストーリーについて、イラストや画像を盛り込んだ小冊子を制作した。作成した小冊子は、ツアー参加者のみならず、学校園の子供たちにも、藻場・干潟の保全・再生活動を知るきっかけづくりに活用する。また、地域の連携先や一般社団法人みんなでびぜんとも連携しながら今後の効果的な発信経路・方法を検討した。

4.2. 作成方針

(1) 小冊子

令和4年度にはアマモに関するリーフレットを制作したが、当協議会の主軸である未・低利用魚へアマモがどのように関わりがあるのか、私たちが何を大切にしなければいけないかなど、海洋環境から水産物や私たち消費者までの繋がりを記載した資料が存在しない。そのため、それらの繋がりをわかりやすい文章と興味・関心をひく持ってもらうイラスト等を記載した環境学習の教材にもなる小冊子の作成に取り掛かった。

(2) 動画編集

当協議会や関連企業が現在までに撮影した動画を編集することにより、リーフレットや小冊子に合わせて、研修などで活用可能な動画の作成を行った。

4.3. 制作物

(1) 小冊子の制作

作成した小冊子を図 4-1 に示す。
小冊子は、5,000 部印刷した。



図 4-1 小冊子

(2) 動画の編集

編集した動画を 4-2 に示す。
約 13 分間の動画を制作した。



4-2 動画

4.4. 今後の活用計画

日生小学校・中学校、学芸館高校など現在でもアマモの苗作りなどを行っている学校園、団体への配布や漁業組合など水産関係各所への配布を検討している。岡山県及び岡山市水産課などへも活動報告と共に活用依頼も兼ねて配布予定である。

また、当協議会が令和6年度より計画中的の出前授業等にも活用予定である。

里海づくり活動を理解してもらうために、幅広い団体への配布を検討している。

5. 好循環形成に向けた検討

5.1. 目的

2～4の検討・制作結果を踏まえた課題の整理を行うとともに、連携企業・団体とも地域内外の地域や世代、立場を越えた多様な人達を巻き込む好循環交流拠点づくりの観点から意見交換を実施しながら、自走化に向けた次年度以降の具体的な内容の検討を行った。

5.2. 検討内容

(1) エコツアーの成果・課題

令和5年度で2回開催したツアーは参加者から楽しんでいただけた意見を多数いただいたが、今後、自走可能な商品化を目指すにあたっては設定料金の課題が考えられる。

社会的な問題に関しての体験を伴った研修ツアーではあるが、日帰りツアーにかかる料金は10,000円前後と想定しており、今回の内容のツアーではその料金での開催は不可能であるため、一番の目的である体験や学習の面はそのままにし、交通手段や食事内容などを再度検討して、参加者の想定金額のツアーを開催出来るよう、引続き、連携団体とも協議する。

(2) 商品開発の成果・課題

惣菜・料理の提案はすぐにでも着手可能と考えるが、小売店舗や料理店のオペレーション、仕入体制、仕入価格などの課題は引き続き検討が必要と考えている。

当協議会は『令和の里海づくりモデル事業』連携団体以外にも流通促進に関しての連携企業も多いことより、小売店舗や料理店などへ惣菜・料理のレシピ提供と共に仕入れ業者などに関する情報も提供していくことで、普及拡大に繋がると考える。

(3) プロモーション・普及啓発で活用するツールの成果・課題

昨年度本年度と今までにない研修に使用可能なツールとしてのリーフレット・小冊子・動画を作成することが出来たが、昨年度に作成したリーフレットなども各団体からの要望により既に在庫数が少なくなっている状況である。せっかく製作出来たツールも数に限りがあるため、多くの団体への提供が困難となっている。増刷は可能な状況ではあるが、増刷のための資金の捻出は困難な状況である。より広範囲においてこのツールを活用してもらうためには、増刷の施策を検討していく必要がある。

5.3. 今後の展望

当協議会としては、里海づくりに関しての直接的な活動は実施できないが、里海づくりの活動はまだあまり知られていない活動であり、参加者も限られた人数の活動が現状のため、より幅広い年齢層でより多くの人に、まずは里海づくり活動を認知してもらう必要があるのではないかと考えている。

しかしながら、研修やリーフレット配布などのみではその関心度は低く、長期的な認知ひいては活動への参加には繋がらないと考えており、まずは海に触れ、水産物を消費するなど、興味を持って参加してもらい、その中に里海づくり、藻場・干潟の再生・保存への理解を深めてもらうことを発信することが一番の効果的な施策と考える。